

屋良部沖海底遺跡

所在地： 沖縄県石垣市 石垣島名蔵湾 屋良部崎沖
座標： 緯度 24° 25' 30.18" 経度 124° 04' 24.0" 水深 約 20m (壺集積)
緯度 24° 25' 31.2" 経度 124° 4' 22.74" 水深 約 21m (1号錨)
遺跡の種類： 四爪の鉄錨 (7点) 壺の集積 (1箇所) [沈没船/積荷等の遺物散布地]
年代： 17~19世紀ごろ

遺跡の概要：

屋良部崎沖海底遺跡は、7つの四爪鉄錨と壺の集積が分布する遺跡です。琉球王国時代(17~19世紀、日本では江戸時代)のものだと考えられます。



※ 見学対象は、**壺集積**、**1~3号鉄錨**を予定しています。

<壺の集積>

沖縄本島で 17~19 世紀につくられていた壺屋焼きの壺が密集しています。珊瑚に覆われた状態で固定され、保存されています。大型で割れていないものが多く、保存状態も良好です。

<四爪鉄錨>

船の停泊具(イカリ)として利用されたものです。大小様々なものが7つあります。すべて鉄製の錨で、先端がくさび状に4つに割れた四爪をもっています(模式図参照)。日本では江戸時代の和船で多く利用され、中国船でも利用されていました。琉球船でも利用していたようです。見つかっている7本のうち大きなものは2mを越えることから、大型の船が利用していたものも含まれています。広い範囲にちらばり、1隻ではなく複数の船が落としたものでしょう。

キーポイント：

- 沖縄県内で、陸でも海からでも、四爪の鉄錨が見つかる場所は他にありません。
- 完全な(割れていない)形での壺がゴロゴロ見つかる場所も珍しいです。
- 名蔵湾(屋良部崎)は江戸時代の絵図でも、船が係留されていた場所として記録されています。
- 学術的にもその重要性が注目され、詳しい考古学調査が行われているところです。
- 冬場や北風が吹いて他のポイントに潜水をしづらい時に、潜水可能な場所にあります。

水中文化遺産 3つのルール

遺物には触らない・遺物は動かさない・遺物を持って帰らない

考古学ではどこに何があるかの状況を確認し、記録することが最も重要な作業です。遺物を人為的に動かすことにより、大切な情報が失われてしまいます。現地、あるがままの水中文化遺産との出会いを楽しんでもらうことを原則に見学・ガイドしてください。

このプロジェクトは、貴重な水中文化遺産を現地に保存したまま公開活用してモデルケースづくりをめざしています。石垣島を中心とする八重山諸島の沿岸・水産資源、中でも水中文化遺産に着目し、これらの文化遺産の文化・歴史的価値を学術的調査により評価し、また地域の独自性を加味しながら、地域における、地域のための教育・観光資源として、地域の人々により活用されていくことをめざしています。

主催：総合地球環境学研究所・東海大学 協力：石垣市教育委員会